

日本アジサイ協会
THE JOURNAL OF THE NIPPON HYDRANGEA ASSOCIATION

第22号 2009.09.



ダンスパーティー (加茂花菖蒲園オリジナル)

写真提供：加茂花菖蒲園

CONTENTS

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 3. アジサイ葉化病の蔓延について | 柿澤 茂行 |
| 5. ファイトプラズマの写真と説明 | 事務局 杉本 誉晃 |
| 10. 学位取得後記 | みつる植物研究所所長 農学博士 藤井 敏男 |
| 17. 伊東市で見つけたガクアジサイ | 平澤 哲 |
| 19. あじさい所有品種管理一覧表 | 鎌倉アジサイ同好会 五十嵐 建夫、掬川 義勝 |
| 29. 第十回自生アジサイ展示会を終えて | 鎌倉アジサイ同好会 掬川 義勝 |
| 山アジサイ 小さく美しく育てる盆栽風仕立て | |
| 32. 朝日新聞から 読者が決める「アジサイ名所」 | |
| 34. 事務局だより | |

アジサイ葉化病の蔓延について

柿澤 茂行 (東京大学 大学院 農学生命科学研究科)

アジサイの病気の1つに「アジサイ葉化病」があり、これが近年、山野に自生しているアジサイやアジサイ園に植栽されているアジサイなどに蔓延し、日本中で大きな問題となっている。本稿では、この病気の症状や特徴と、アジサイの病害調査に行ったときに感じたことをご紹介します。

アジサイ葉化病の一般的性質

アジサイ葉化病は、「ファイトプラズマ」という微生物の感染によって引き起こされることが分かっており、その病原体は「アジサイ葉化病ファイトプラズマ」と命名されている。その病徴は、花が葉に変化する「葉化症状」が非常に特徴的であり、これに加えて、葉が部分的に茶色もしくは紫色に変色する症状（これに類似した症状を海外では「パープルトップ」と呼ぶこともある）が挙げられる（図1）。特に葉化症状は非常に珍しく綺麗でもあるため、ファイトプラズマ感染アジサイは鑑賞目的のため非常に重宝されてきた。しかし、綺麗な葉化症状を呈するのはほんの一時期であり、感染した植物は健全植物よりも葉を落とすのが早く、最終的には感染アジサイは枯死する。また、この病気は周囲の株にも拡大するため、周囲のアジサイがほとんど枯死するなどの被害も多く、感染アジサイは速やかに取り除く必要がある。

この病気の病原体である「ファイトプラズマ」は細菌（バクテリア）の一種であり、植物の篩部組織にのみ感染するという特徴を持つ。多くのファイトプラズマは、ヨコバイなどの吸汁性の昆虫によって伝搬され、ネナシカズラのようなつる性の寄生植物によっても伝搬される。また接ぎ木によっても伝搬が起こり、挿し木や挿し芽により感染を維持したまま株を増やすこともできる。一般的には、ファイトプラズマに感染した植物を治癒することは困難である。



図1. アジサイ葉化病の病徴

花弁状の萼片（装飾花）が葉化している。雄蕊や雌蕊が葉化している花もある。一部の装飾花においては、本来の色である赤色が先端に残っている（写真上部）。

葉は部分的に茶色く変色しており、これも典型的な病徴の1つである。特に葉の先端や縁が変色しやすい。

北関東における調査

2009年6月、栃木県においてアジサイ葉化病が蔓延しているとの情報を得て、日本アジサイ協会理事の杉本さんと、現地の方2名に案内していただき、現地調査に赴いた。山野に自生しているアジサイの被害を調査し、裏庭にアジサイを植栽されているお宅に伺った。

自生アジサイは、かなりの数が感染しており、典型的な葉化症状に加え、葉が茶色く変色した株も多数見受けられた(図2)。その被害は、周辺の自生アジサイにも徐々に拡大しているとのことで、被害の大きな場所では完全に枯死して幹だけになってしまったアジサイが多数残されていた。また、裏庭にアジサイを植栽されているお宅では、一昨年まで8,000株ものアジサイを植えていたそうだが、それらが全滅し、その後に新たに植えたアジサイにも葉化症状が認められた。今回の調査を通して、あらためてファイトプラズマ感染被害の大きさと、その恐ろしさを実感した。なお、これらの全ての箇所からアジサイをサンプリングし、そこからアジサイ葉化病ファイトプラズマのDNAを検出したところ、すべてのアジサイから検出されたことから、これらのアジサイがファイトプラズマに感染していることを確認した。



図2. 自生アジサイの病徴

A. 葉化症状を呈している。光っているのは雨に濡れているため。

B. ファイトプラズマに感染し、完全に枯死して幹だけが残ったアジサイ(手前に写っている茶色い幹と枝)。

被害の大きな山野には、こういった植物体がたくさん残されていた。

C. アジサイを植栽されているお宅に新たに植えたアジサイの病徴。花の葉化症状と、葉が茶色く変色する症状を呈している。

アジサイ葉化病の対策について

アジサイ葉化病の拡大を防止するには、感染株をすみやかに抜根焼却することが最も効果的である。病徴をよく見て感染株を早期に発見すると共に、感染株を見つけたら速やかに抜根し、また感染株を移動させないようにすることが大切である。加えて、感染しにくい品種を植えるなどの対策も効果的である。

現在までのところ、アジサイ葉化病ファイトプラズマを媒介する昆虫は特定されておらず、伝搬経路は不明である。しかし、野外調査の印象からすると、媒介昆虫が存在する可能性が高いと思われるため、今後、媒介昆虫が特定されることで、媒介昆虫の駆除による防除法などが検討できると期待される。

葉化したアジサイは非常に美しいため、鑑賞目的のために重宝され、昔から高値で売買されてきた。現在でもまれに流通していることがあり、数年前にはインターネット等でも簡単に購入することができた。しかし、ファイトプラズマ感染植物の流通は、アジサイ葉化病の蔓延を進展させるため、歓迎されるべきものではない。アジサイ愛好家の方々には、ぜひとも流通されないように監視していただくようお願いしたい。

◆ 平成21年6月18日 東京大学大学院農学生命科学研究科4名、日本アジサイ協会より2名、現地案内1名の7名でファイトプラズマ調査。写真は東大より提供して頂きました。

事務局 杉本



山アジサイ自生株のファイトプラズマ



山アジサイ自生株。両性花の葉化が出始めている。

山アジサイ自生株



園芸種。装飾花の葉化と葉の変色が始まっている。



園芸種。装飾花がすべて葉化している。



園芸品種のファイトプラズマ。葉が枯れ始めている。



園芸種。両性花の葉化が進み、突貫現象も出ている。



装飾花・両性花ともに葉化している。



園芸種。
花全体が繊細工のようで光沢が美しい。



平成19年まで8,000株のアジサイ(園芸種)が咲き競っていたアジサイ園。完全に全滅。平成21年6月18日撮影。



ファイトプラズマの初期



園芸種。装飾花、葉ともに変色し始めている。



園芸種。全体にファイトプラズマが出ている。やがて株全体が緑色になる。



園芸種。完全に葉化して、突貫現象が顕著に見られる。

枯死寸前の山アジサイ自生株



園芸種



園芸種。葉化が進んでいる。



ファイトプラズマの初期。山アジサイ自生株。



山アジサイ自生株(平成21年6月18日)



葉が紅葉を始め、枯死が近い。



園芸種



園芸種



学位取得後記

みつる植物研究所所長 農学博士 藤井敏男

はじめに

筆者は一昨年2006年3月に58才で東京農工大学より博士(農学)の学位を授与された。研究テーマは「高品質の甘茶品種育成及び栽培法の確立に関する研究」であった。アジサイとかかわる中で、日本人に古来より利用されてきた甘味成分を持つアジサイから作られる甘茶の素晴らしさを知り、今日ではほとんど顧みられる事のない甘茶の再評価と新たな利用を提言しようと考えた。そしてそのためには従来よりも高品質な甘茶を開発して世間にアピールすることが不可欠と思ひ、原料となる高い甘味成分を持つアジサイ品種の育成と栽培法の確立をめざしたのである。その結果、きわめて小規模な試験研究ではあるが新規発見や有望系統の育成に成功した。その詳細は主任指導教官の宇都宮大学作物栽培学研究室吉田智彦教授のホームページの一角に博士論文が公開されているので是非参照いただきたい。特にこの論文では、後に続く方の出現を期待して、専門家でなくても実際に育種ができるよう、筆者が苦勞して確立した方法のすべてをできるだけ具体的に記述するようところがけたので、アジサイの品種改良に取り組みたいと望む人には大いに役立つものと思う。

そこで、ここでは研究の内容よりもむしろ、金が無く、設備も備品も無く、また、まともに読めない、書けない、パソコンもできない歳のいったりタイアした研究者がどうしてこのテーマに取り組もうとしたのかという背景、そして研究の過程で次々と現れる課題とその解決を助けてくれる多くの人の出現、これは今ふりかえるとまさに奇跡の連続といった感がするのだが、そういったことについて述べるとともに、試験を進めながらこれからの我が国のアジサイ研究にとって必要ではないかと思つた点、さらにその後のアマチャ新品種育成の進み具合について述べることにする。

最も主要な原産国でありながらこれまで本格的な研究を行ってこなかった日本のアジサイの関係者にとって、多くの方向からの研究の開始は急務であります。筆者は最新の情報には通じていないのでやや時代遅れの点をご容赦いただき、本稿がその一例として参考になれば幸いです。

第一部 研究の背景

アジサイと出会う前

筆者は平成2年(1990年)42歳の時に19年間勤務した栃木県農業試験場を退職し、道端の露天で鉢花を商うことになった。在職中16年間は南河内分場、移転して後の栃木分場でビールムギ、最後の3年間は本場で新規に始まった水稻の育種と好きな品種改良一筋に歩んだ。なかでも主産地に壊滅的な被害を与えていた土壤伝染性ウイルス病の大麥縞萎縮病にかからないビールムギ品種の開発に世界にさきがけて成功し、主産地を復興させたのは思い出深いものである。これには最初の交配から19年を要したが、後ろの16年を担当した。最後は当時4分の1の価格で潤沢に原料が輸入でき被害が大きくても困らないビール会社と、抵抗性品種の認知、普及を求める農民との政治闘争となり、積極的にかかわった私は育種家がそこまでやる必要があるのか、と言われた。しかし一刻も早く現場の被害を救うのが農業研究者、とくに育種家の務めと考えていた。その当時、今日までの心のよりどころとなる本と出合った。本多勝一著の「貧困なる精神」で、これは数十冊に及ぶシリーズで、アイヌ民族や数多くの実例に基づいて文化とは人の生きるよりどころであり、すべての

民族の文化は等しく価値のあるものとして尊重されなければならないこと、差別するものとされるものの論理、冒険とは何か、国際化と植民地化はどう違うか、といった事が極めて明快に論理的に書かれていた。当時、19歳から世界に誇りうる楽器と思って本格的に尺八を学び、また、日本を代表する国際的な箏演奏家の高田育子氏の薫陶を受けていた私は、常々邦楽が自国での評価が極めて低く、むしろ外国人に高い評価を受け、尺八などは演奏家にも日本人より優れた人材がいることに忸怩たる思いがしていた。貧困なる精神を読んで始めてそうしたことの底にある日本人が知らず知らずのうちに持たされている外国偏重の思想を理解できた。話ごとに短くまとめられて大変読みやすく、話題は多岐にわたり、外国人の尺八についても正確に記述されていたのには驚いた。そしてその後の人生においてどちらかというとき常に少数派である私の選択の指針、心の支えとなった。我が国原産でありながら自国での研究が遅れているアジサイを世界に誇る遺伝子源として高く評価し、一日本人として微力ながら力になりたい、と今でも使命感を感じるのもこうした背景があったからだと思う。

山本武臣先生との出会い

試験場を辞めた時、心配した当時の花き部長の峯岸長利氏が「みつる植物研究所」という名前をつけてくれた。二度と再び研究とかかわる事はないと言う私に、こうしておけば何でもできるだろうと、才色兼備の研究員の名にあやかっただけのものだった。そして、かつての教え子でやがて覆輪のアジサイのフラウシリーズで世に出る海老原廣氏を紹介してくれた。その後、鉢花屋をしながらタキイ種苗へフラウシリーズを仲介したり、苗生産や各地のアジサイ園作りの手伝いをした。数年後、アジサイに明るい知人と栃木花センターにアジサイの展示会を売り込むと約100万円の予算が付いたので「世界の珍しいアジサイ展」と銘打って、室内に雑木林を作って珍しいヤマアジサイを植え込むなど当時としては画期的な展示を行なった。その際、何か目玉になるものをと考えた知人が、杉本誉晃氏にお願いし山本武臣先生を紹介して頂き、先生から今でこそあちこちで見かけるが当時はめったになかった八重のカシワバアジサイを借りることにし、ワゴン車で練馬のお宅に伺った。すると開口一番「世界のとはまあ、だいそれてるね。第一、珍しいものもないし」とあきれかえっておっしゃった。ハツタリとおぼしき題名に憤慨していたかも知れなかったしアジサイ研究の第一人者のコケンにかかわったのかもしれないが、当時の私はそんなことは知る由もなく、心の中で「一般の人には十分珍しいし、10年後くらいまでには世界の、にふさわしいものになるまだその第一歩だ。偏屈なおっさんじゃな。」と思いつつ、何とか借り受けて戻った。それはたいそう立派な大物で、NHKのニュースで見事な房がタイトルバックに流れると、翌日から花センターには道順を尋ねる電話が殺到した。その後海老原氏、坂本正次氏、谷田部元照氏の日本の3大アジサイ育種家をお招きして山本先生の講演会を行い好評を博した。山本先生はあきれ返りながらも神戸の藤井さんなど知人を紹介してくださり、徐々に展示物も増えたが、費用が200万円ほどかかり、会場で苗を即売したものの追いつかず結局3年で立ち消えとなった。

甘茶との出会い

やがて年に1度くらい山本邸に伺うことになった。先生はよく「僕は研究者なんて言われてもまったく自信がない。コレクターだろうね」とおっしゃっていたが、これまで誰も顧みなかったアジサイの歴史を調べ、自分で発見したりよそで発見された多くの新品種に名前を付け、全国各地の現地に足を運び、語学も堪能で外国の研究者と交流があり、なにしろ主だった日本のアジサイの出版

物はすべて彼の物が彼が関与した物という事からして、まさしく日本の歴史上唯一最高のアジサイ研究者である事はまちがいがなかった。

ある日のこと、梅酒用のガラス瓶から茶色の液体を汲んで「この酒に何が入っているか分かるか」と言うので飲んでみると甘い、甘茶ですかと申し上げると「甘茶と生姜だよ、甘茶は昔から海女さんが常飲して体が温まって健康にいいんだ」と森下仁丹研究開発部の資料を下さった。そこには甘茶の薬効に関する研究結果として、抗喘息作用、抗歯周病菌作用、抗潰瘍活性や抗酸化作用等が述べられていた。また、ノンカロリーで昔から糖尿病患者の甘味料として利用されてきたことを知った。子供のころ4月8日の花祭り（灌仏会）に宇都宮市のスポーツセンターで無料で甘茶をいただき、おまけに花の種の絵袋をもらうのが楽しみだった事を思い出してすっかり話に花が咲き、先生が調べた甘茶の歴史やら今日長野県信濃町に宗教団体の契約栽培として約20ha残っている産地の様子などを聞かせていただき、帰り際にその高校の先生で篤志家を書いた「甘茶（天茶）栽培必携」という古い冊子をいただいた。その中の写真には調査をしている先生が写っていた。

後で読んでみると、収量や品質の優れる品種が望まれるがこれまで誰も品種改良に成功していない、とあった。その時、花としてのアジサイが交雑育種でできるのだから成分の検定法さえ確立すれば交雑育種で良質な多収品種は簡単にできるのではないかと、誰もやってなければそれだけ効果が大きいはずだ、良質多収なビールムギ品種育成での経験がそっくり生かせる、と思った。それまでは商売上鉢花のアジサイを扱っていたがアジサイはそれほど売れる物でもなく、すでに先行する育種家もおられるので自分でやりたいとはまったく思わなかった。自分は昔から本多勝一氏も言うようにオリジナリティーこそが人生でもっとも重要と思っていたし、ハウスで栽培する野菜や花より戸外の広い畑でのんびり作るものが性に合っているとも感じていた。甘茶は現代病にピッタリで、葉は飲んでしまえばなくなりまた売れるし、将来は肥満に苦しむ外国への輸出も可能かも知れない、乾燥した葉ならコピー品種を作られる恐れもないし、これはひょっとすると独占で大儲けできるかもしれない、と、このところずっと家内の扶養になっている貧乏花屋の夢は膨らむばかり。他方、健康に良いとステビアを甘味料とするノンカロリーの飲料が巷にあふれている事も気がかりだった。こんな外国産のものの安全性は誰が保障するのか、金さえ儲かれば何をやってもかまわないという輩が日本民族を使って壮大な実験をしているようなそんな気がしてならなかった。その点、甘茶は長く日本人が用いてきたので極めて安全で健康に良い国産甘味料ではないか。そこでこれまで誰一人やったことがない、アジサイを工芸作物の観点からとらえなおし、甘茶の原料となるアジサイの品種改良をしようと考えた。誰もやっていないうちがチャンスと山本先生から多くのアマチャ品種を分けていただいたが、その一つが後に問題となった。新発見の唯一のテマリ咲きアマチャ品種として私が増殖を依頼された先生命名の「タンゴマイコアマチャ」を増やしてみると葉が甘くない。そのむね報告すると先生は得心がいかない様子でどうしても納得されない。最後はこちらも感情的になって全部お返しし、以後かかわらないことにした。数年後、全部枯れてしまった、君のところに残ってないかね、とバツの悪そうなお電話があり、懐かしかった。実はいつか決着をつけようと1株だけ手元に残して置いたがその時はあいにく農場を移転して所在が分からなかったの、見つけ次第お返しします、と申し上げたのが最後だった。やがて立派な花が咲いて発見し、早速電話するともう先生は寝たきりでどうすることもできなかった。

吉田智彦先生へ弟子入り

植物研究所といってもパートが一人いるだけで、さすがにこの頃は露天ではなく、手作りのパイ

プハウス3棟で鉢花を商っていた。市街地のはずれだった場所はいつの間にか小山市でも一等地になっていたが、もともと性格が商売に不向きで客から金を取るのに罪悪感があり、当然儲からず、自分はこれは仮の姿で、太公望のようにいつか自分を見出してくれる人が現れるだろう、現れなければそれまでの事と思ってただ毎日を忙しく過ごしていた。近くに50aの畑を借りてビニルハウスを建て、多少のアジサイを作ったり、パンジーを作ったりしたが、アマチャ品種の開発は始めるきっかけがなかった。

花屋になって11年後の平成13年（2001年）に突然旧知の吉田智彦氏から「今度宇都宮大学に行くから」という電話があった。それも私が出た栽培学研究室の教授だった。吉田さんは国の育種のスペシャリストでムギ、イモ、水稻など行く先々でデータをまとめ、品種を作り、後継者を育て、行動も速ければ物を書いても超一流、何よりも私のような当時地方の現場で畑にはいつくばっている人間にいつもあたたかい目をかけてくれる方で、同世代の育種家でただ一人自分がとうていかなわぬ、と思っていたその人だったから不思議な縁に驚いた。

お会いすると、社会人入学して博士号を取得するようにと勧められたが、自分の能力ではとうてい無理だし、赤字の店を放って学校には行けないとお断りした。ただ、そう言っていたことがとても嬉しかった。2年後、あるところでトマト博士として有名なカゴメの稲熊博士の講演会に招待され、終了後お目にかかる機会を設けていただいた折にこの話をすると、そんなことで満足してはいけない、それに博士になるのはあなたが考えているよりはるかに大変だよ、と叱咤された。そこですぐ話を聞きに吉田さんを訪ねると、学位が無いと外国では研究者とみなされない事、私のように組織に合わない人間が自分の意志を通すには学位を取ることが不可欠であること、そのためにはどンドン社会人入学しなさい自分が門戸を開いて相談に乗るから、と宣言した「試験場の皆様へ学位取得の薦め」という別刷りを下さった（ホームページ参照）。首尾よく行って私が58歳で博士になる社会的意義は何ですかと問うと、勇気づけられて後に続く者が現れることだ、さらに、必ず3年で卒業するように、そのためには心配せず私の言うとおりにやってくれ、君の名誉ではなく、私の名誉がかかっているのだから、と言われた。また、君のような社会人を掘り出して指導し、きちんと博士にする力量がこれからの大学には問われている、とも言われた。埋もれた研究者を育てようとする情熱は昔のままだった。

そこで翌平成15年（2003年）3月に宇都宮大学、茨城大学、東京農工大3者の連合大学院博士課程に入学することを決めた。私は修士課程を出ていないのでビールムギ研究の実績で認定していただき、試験もこれで臨んだ。すべて吉田先生が計らってくれた。テーマを決めるときに長年温めてきたアマチャでどうですか、と何うと、先生は見た事も聞いた事もないアジサイにもかかわらず即OKして下さった。母本とアイデアしかなく、恐る恐る伺ったこちらがむしろ拍子抜けした。後日分かったことは、先生にとってテーマは何でも良く、生徒が意欲を持つ物を指導してまとめさせ、世に出す力をお持ちだった。だから、吉田教室の卒業生のテーマは他にあまり類例を見ない生産現場にはりついて行った泥臭い調査研究から最新のDNAレベルのものまで多岐に渡っていた。ただ、博士課程は通常データを持って入学するので、丸腰の私がしかも時間のかかる育種で3年間で卒業できることは不可能に近く思えた。卒業論文にはしかるべき学会で最低1報論文がとおらなければならず、うわさでは博士課程に社会人入学して博士になれるのが6割、3年でなれるのはそのまた6割、結局4割弱とのことだったが吉田教室は国外からの留学生を含め全員クリアしているのだった。

主産地訪問

入学前年にどうしても信濃町の主産地を見ておきたかった。ある時、墓地の周囲に植えるアジサイを望まれてアナベルとヤエカシワバを50株ほど差し上げたのがきっかけで、お盆や彼岸にテントで花束を売らせてもらっている結城市の乗国寺の鈴木仙舟住職に話すと、住職は婿養子で信濃町が生まれ故郷だった。協力してあげるよ、70歳を越した今でもしょっちゅう帰るから、と無料で連れて行ってくださった。おまけに同級生の信濃町教育委員の駒村俊敬氏はトウモロコシの育種の趣味がこうじて種苗会社の現地試験を担当しているほどの人で喜んで協力してくださり、同氏の案内で例の栽培必携の現場の解脫会黒姫出張所の大規模な甘茶加工施設や契約圃場を見せていただいた。秋口にもう一度アマチャの穂木を採取に行き、駒村氏が手配してくれた、今では使われなくなった古い甘茶作業場横の畦から採取することができた。

第2部 研究の経過

研究方針の決定

従来外見からのみ論じられてきた花としてのアジサイ研究から離れ、葉を利用する工芸作物としての観点からアジサイを見直すこととした。アプローチの方向はまず、アマチャ群品種（葉に甘味をもつ品種の総称）とはどのような特性を持つのかアジサイ属の中における位置づけを明らかにして育種の方向づけを行い、最終的には甘茶の原料となる高品質品種育成と栽培法の確立をめざした。これらは時間がないので全てを同時に進めることとし、その間、花に関する調査は一切行わないこととした。

1. アジサイ属におけるアマチャの特性に関する研究

形態的特性、気孔の長さ、フローサイトメーターによるDNA量、染色体数、SSR分析を行い、最終的に主成分分析を行って、育種の方針を決めた。供試材料はアマチャ群品種がアマチャ、コアマチャ、アマギアマチャ、ヤエノアマチャで他にヤマアジサイ系、エゾアジサイ系、江戸時代からの栽培種、ハマアジサイ系、育成品種、それから近縁種のコガクウツギ、タマアジサイ、ツルアジサイ、アナベルの合計25品種であった。これらを選ぶ際には、評価が定まっていた小山市で丈夫に育つものとし、マニアックなものは除いた。ねらいとしてはこれまでの経験から分かっていた丈夫なアマチャと、典型的なヤマアジサイのアマギアマチャの差がどの程度のものかを数値的に知ることだった。他方で同時に行っている交配でもこの組合せに最も期待していた。

形態的特性 遮光、無遮光で6号鉢に養成した2年生株について草丈、枝数、太さ、節間長、葉の大きさ等の収量構成要素とダニ害を調べた。その結果

アマチャはヤマアジサイとは思えないほど強光下でも丈夫でダニ害が少なく、枝数、葉数は少ないが葉は大きかった。一方アマギアマチャは弱光下でよく育ち葉は細いものの枝数が極めて多いため葉数が多いことが実証された。

フローサイトメーターによるDNA量と染色体数 日本ではアジサイの染色体に関する正確な記述が見当たらないので是非調べたいと考えていたところ、2年前に栃木農試に5ミリ角の葉があれば簡単にDNA量が測れるフローサイトメーターという機器が導入されているとのことで、早

速伺うと生物工学部にあった。部長はなんと昔の部下で、万事好都合だった。これで世界にさきがけてアジサイの染色体量が測れると喜んだのもつかの間、吉田先生が検索したところ同じこの機器を用いた大規模な試験がすでにフランスで2年前に行われていた。がっかりすると同時に、その報告で、あまりに外国で研究が進んでいる事を知り、ショックを受けた。個々の品種名はなかったが、アジサイ属のうち北アメリカ、日本、台湾、中国、ヒマラヤ、韓国の16種54品種が供試されていた。しかも、驚いたことにそれらの材料は何とすべてがフランスにあるUPOV（新規品種の権利を保護する国際機関）のコレクション1ヵ所から入手したものだ。外国産のものは幸い、山本先生のところで見聞きしたことがあったが、皮肉なことにわか勉強の身でもっとも分からなかったのは日本産のもの分類で、この問題は最後までつきまとい、私の論文では分類や学名での表記はできるかぎり避けるはめになった。そしてその論文の結論はアジサイ属のほとんどの種は $2n=36$ で、タマアジサイが30、アスペラが34という結果だった。同時にこの論文で重要なことは、アジサイはコムギなどと同じく複二倍体で、いくつかの先祖に由来する染色体が集まってなりたっている、という点だった。そして、その由来を染色体の形から明らかにしようとしていた。すべての点で日本は完全に遅れている、と思いつつ、とりあえず自分は自分で調べてみよう、若い研究員の助けを借りてフローサイトメーターでDNA量を測定した。極めて簡単だった。結果を見ると、近縁種はフランスの結果と良く一致したが、もっとも知りたかったアマチャのDNA量はアマギアマチャの1.2倍と明らかに多かった。また、特異的に頑健なため供試したブルースカイは1.5倍あり、仮にアマギアマチャが2倍体ならば3倍体と思われた。

そこで、次に実際に根端細胞を染色して検鏡する事になった。幸い、隣の育種学研究室はアブラナ科の研究のためにそれが専門だったので、房相佑博士に手ほどきを受け試みた。先生は、半日で10点くらいできますよ、と言われたが、素人の悲しさ、月曜から木曜まで毎日6時間顕微鏡にはりついて1ヶ月半かかってようやく納得のいく7種の写真がとれた。体中が痛かった。結果はアマギアマチャが $2n=36$ に対して、アマチャは染色体が36本の細胞のほかにも小さな染色体を多数持つ細胞が多く見られた。サンプルを使い果たしてしまい、それ以上のことは分からなかったが、これがDNA量が1.2倍ある理由と考えた。染色体数が不安定なことは長年栄養系で繁殖させるものには良くあるケースのようだった。また、ブルースカイは54本の染色体が確認でき、3倍体であることが確認された。これらはフランスの結果には無く新規に分かったことであるが、以上の作業で苦しんだ理由は検鏡以前に細胞分裂が旺盛な根端を得るための苗作りが不十分だったせいである。

ところで、かつて山本先生からブルースカイは本当の名前ではないようだ、という手紙を貰っていたので調べると、スイスで育種されたヨーロッパの小鳥の名を付けたシリーズの一つのブラオーマイゼ（青ケラ）であることが京都府立植物園の協力で分かり、記載された本も分かった。推測だが、ヨーロッパで花を大きくするため4倍体を作り、2倍体と交配して3倍体にしたところ頑健になり里帰りしたのではないだろうか。

SSR分析 DNAを増殖し、数種のプライマーと反応させて出てくるバンドの有無のパターンから品種を類別しようとした。教室の先輩のインドネシアからの留学生のアナス氏（後に博士）の全面的な協力を得た。アジサイ用のプライマーは無いのでとりあえず彼と吉田先生がソルガムで用いたものを使い行った結果、アマチャとアマギアマチャは異なるグループになった。また、他の品種もいくつかのグループに分かれたが、たとえば出所も八重の花の形状からも良く似たジョウガサキとイズノハナが異なるグループになるなど、従来外見から想像していたグループ分けとは大きく

異なった。このことから特にアジサイの由来を知るための研究の一つの方向として、今後こうした面からのアプローチは不可欠と考えられた。

主成分分析 以上の調査結果を用いて吉田先生にお願いして主成分分析による解析をお願いしたところ、最終的に一つの分布図にして下さった。それによるとすべての供試品種のばらつきの中にアマチャ群品種も適度にばらついており、特異的に近くに集まることはなかった。したがって、アマチャ群品種同士の交雑育種によってかなりの育種効果が得られる可能性が示唆された。

学会投稿 そこで、以上の結果を「アジサイ属におけるアマチャの特性」として日本作物学会に投稿した。かつて私の所属していた育種部門では新品種が出たときは主任が書くので私は論文を書いたことが無く、書き方のルールすら分からず、すべて吉田先生の教えをいただいた。審査は2名の審査員によって行われ、一人は「こんなマイナーなものを良く研究しました」と好意的であったが、もうお一人は「これは研究論文ではありません」とまことにすげないものであった。そして、内容よりも主として試験規模などの体裁に多くの不備を指摘された。私は経験もないし、これではとても通るまい、と悲観したが、吉田先生はそれらの一つ一つにできうる限り誠実にお答えし、反論するところは徹底して反論された。数度に及ぶやりとりの結果、2005年3月の日本作物学会紀事第74巻第1号に掲載が認められ、最も重要な卒業条件の一つが満たされることになり、それまでの経過が激しかっただけに嬉しいというより、信じられない、まさに夢のような、という思いがした。それにしても、前例もなく、手探り状態で行った試験のつたない論文を好意的に見て下さったのはどなただったのだろうか。以下次回に掲載致します。



天城甘茶



小甘茶

※ 写真提供 (株) 彬の葉書房

伊東市で見つけたガクアジサイ 4種

平澤 哲

伊東市の海岸線は磯とごろた石(大小の玉石)の浜が多く、砂浜は一部の河口周辺にしかありません。ガクアジサイは磯及びそれに続く明るい樹下、ごろた石の浜と後ろに迫る崖との境周辺に自生しています。伊東市街地より川奈にぬける海岸線の道沿いでは、車からそれらを見ることができませんが、ほとんどの自生地は歩いて行くことになります。

私は20年以上前より、そのような不便なアジサイの地を見てきました。そして初期の頃より、世界でも稀なガクアジサイの聖地になれると感じてきました。伊豆のアジサイとして有名な「伊豆の華」や「城ヶ崎」だけでなく、たくさんのすばらしいアジサイが人知れず花を咲かせている姿を見ていたからです。人の社会と同様に、ここの自然環境も変化が激しくなってきた中で、どのようにしてこのアジサイ達を守っていくかが今後の課題です。

発表したいと思わせるアジサイはまだ多くあるのですが、固有の特徴を持ち、それが安定していると確認できた個体から名前を付けたいと思います。当地では、海岸に咲く花に磯の字を当てることがあります。磯落(⇒ツワブキ)や磯百合(⇒スカシユリ)がその例です。伊東市の海岸で見つけられたガクアジサイにも、磯を付けて命名しようと思います。



上がり息を整える「ヒュー」という音が磯笛です。

磯笛(いそぶえ)：花型は伊豆の華と城ヶ崎の中間に位置する八重咲き。城ヶ崎より深い色、開花後半に形が崩れにくい。アメリカでは Shamrock と呼ばれている。城ヶ崎発見の翌年に岩場で見つける。樹高2m程の大株全面に、濃い青色の八重花を咲かせていた。このアジサイは海より直接立ち上がった崖の上に自生している。私がこの磯を初めて見たのは小学生の時です。その当時は、志摩の鳥羽から夏の間だけ海女さんがきて漁をしていました。その船に乗せてもらい、漁の行き帰りに海岸線を眺めていたのです。海女さんが海面に



磯万度(いそまんど)：ヤマトアジサイより女性的な花型のテマリ咲き。段咲きになりやすく縦長に咲くことがある。大きく咲く花は4~5個の花房が合わさった形となりやすい。ヤマトアジサイ発見の翌年、400m南西側で3株のテマリ咲を見つける。それらの真ん中の株で、最も個性のある花です。伊東市八幡野の祭りでは、若者が約60kgある柱の上に花飾りを付けた万度をさします(振りかざす)。これは悪霊を祓うためですが、若者の力自慢の場でもあります。地元の祭りに使われる華やかな万度を名前に加えました。



磯の滝(いそのたき)：ガク片中央一本の白い筋が入る絞り咲き。はっきりとわかる白線であり、安定してほとんどのガクが絞りとなる。以前よりこの花の周囲にたくさんの絞り咲きがあることは知っていたが、2007年に本格的な調査に入る。その時に10種以上の中より採取した7種の絞り咲きの一つ。現地で最も目立つ絞りだった。城ヶ崎海岸に一つの滝があり、アジサイが咲く梅雨時には広い白線となり、海に落ちています。また、田植え時には水無し川となり、幻の滝となります。装飾花の強い白線が毎日姿を変える滝の流れに似ていました。



磯しぶき(いそしぶき)：ガク片に白い線と班紋が入る絞り咲き。今まで見た絞り咲きの中で最も大輪、装飾花の変形が少くない。磯の滝と同じ日に採取。自生地より栽培地で大きな花を咲かせた。濃い青色に咲かせると、絞りの白色がより目立つ。自生地の海岸は海が自化ると、波が直接岩に当たり、しぶきとなって高く舞い上がります。青い装飾花に入る模様が、青い海にしぶきが舞う姿を連想させます。

平澤哲氏は名花「城ヶ崎」や「ヤマトアジサイ(古代紫)」等の発見者で伊豆半島の植物に大変精通されており、下田市の土屋隆一氏と共に私の伊豆のアジサイ調査の誠にご協力いただきありがとうございます。

本年は(財)相模原市みどりの協会理事長の岡部誠氏も同行して頂き、7月7日～8日に東伊豆及び南伊豆の広範囲の調査を行いました。外国に渡り「タンブリンマジョール」、「シヤムロック」等と命名されている原木も元気で安心。

新たに本年も色々のアジサイとの出会いがありました。

平澤氏、土屋氏、外岡氏のご協力を得て伊豆の野生種図鑑を作成したいと思います。

事務局 杉本

あじさい所有品種管理一覧表

鎌倉アジサイ同好会 五十嵐 建夫、掬川 義勝

番号	◎	フリガナ	品種名	産地	備考
1	◎	アイメ	藍姫	徳島	「七変化」と同じ(七変化はアジサイの古名。品種名は不適當)。
2		アアマチャ	青甘茶		
3		アガク	青ガク	東海	コアマチャに似ている
4		アコガク	青コガク	熊本	自然交雑
5		アソクバ イアマチャ	青軸梅花甘茶		梅花甘茶属
6		アソビ ミチヨ	青しじみ蝶	高知	
7	◎	アゾラ	青空	広島	「蒼空」、「碧空」と同じ(碧空は交配種にもある)。
8	◎	アチマリ	青てまり		エゾ
9		アバナコガク	青花コガク	福岡	英彦山。自然交雑。
10	◎	アバノエ	青葉の笛	新潟	エゾ
11		アオクリンキヨスミ	青クリン清澄	千葉	紫フクリンと同じか、実生か交配種?
12	◎	アカエダヤマ	赤枝山	大分	久住の赤軸と同じ
13	◎	アカラアマチャ	赤倉甘茶	新潟	
14		アジク	赤軸	大分	(久住の赤軸)
15	◎	アカナ	赤花	伊豆	箱根
16		アカナイワガラミ	赤花岩がらみ		岩がらみ属
17		アカナツギ	赤花ウツギ		ウツギ属
18		アカナコガク	赤花コガク		(移り紅と同じか)
19	◎	アキノテマリ	秋篠テマリ	愛媛	
20		アツシボリ	渥美絞り	伊豆系	(ガク系)交配種
21		アナベル	アナベル	北米	オランダ改良
22	◎	アマギアマチャ	天城甘茶	伊豆	天城峠1,406m
23		アマギシグレ	天城時雨	伊豆	天城甘茶の斑入り
24		アマギヤムササキ	天城八重紫	伊豆	不明
25	◎	アマチャ	甘茶	関東以西	
26		アマノガワ	天の川	高知	
27		アマミサアジサイ	奄美草あじさい	奄美大島	(草アジサイ属)
28	◎	アヤ	綾	石川	山中温泉、エゾ八重咲。(松枝氏)
29		アワシク	阿波紫紅	徳島	
30		アワシロ	阿波紫紺	徳島	
31		アワシロ	阿波白	徳島	
32	◎	アワムササキ	阿波紫	徳島	
33		アヲキ	淡雪	京都	
34	◎	イナガシ	井内緋	愛媛	井内川
35	◎	イヅチヒカリ	石鎚の光	愛媛	石鎚山1,982m。八重咲。
36		イズノハ	伊豆の華	伊豆	(ガク系) (飯田氏)
37		イツナイリウツギ	一才ノリウツギ		
38		イツボシ	五つ星	山口	分類上はヤマ
39		イチマリ	伊那テマリ	長野	
40	◎	イバニ	伊那紅	長野	紅テマリと同じ
41		イノサキウラク	猪坂集落	滋賀	(上町氏)
42	◎	イヤテマリ	祖谷テマリ	徳島	祖谷溪
43	◎	イヤカザグルマ	祖谷の風車	徳島	祖谷溪
44	◎	イヨガシ	伊予緋	愛媛	伊予の青緋と同じか?
45	◎	イヨカザシ	伊予かんざし	愛媛	

46		イカンセツ	伊予冠雪	愛媛	
47	◎	イコマチ	伊予小町	高知	仁淀川
48	◎	イコモン	伊予小紋	愛媛	自然交雑
49	◎	イザンセツ	伊予残雪	愛媛	
50		イシグレ	伊予しぐれ	愛媛	
51	◎	イシズク	伊予雫	愛媛	コガクとの自然交雑
52	◎	イシボリ	伊予絞	愛媛	
53	◎	イシロ	伊予白	愛媛	
54		イシリン	伊予大輪	愛媛	コガク
55	◎	イシマリ	伊予テマリ	愛媛	
56		イシキ	伊予錦	愛媛	
57		イシカガシ	伊予の青緋	愛媛	
58	◎	イシウスミ	伊予の薄墨	愛媛	赤石山系
59		イシコボリ	伊予の小絞	愛媛	
60	◎	イシカズキ	伊予の盃	愛媛	
61		イシクラ	伊予の桜	愛媛	
62	◎	イシタグレ	伊予の五月雨	愛媛	コガクとの自然交雑
63	◎	イシシテマリ	伊予の獅子テマリ	愛媛	
64	◎	イシユウジセイ	伊予の十字星	愛媛	両性花のみ緑と紅のつぶつぶ
65	◎	イシハナ	伊予の華	愛媛	
66		イシハナヒ	伊予の花火	愛媛	
67		イシヒカリ	伊予の光	愛媛	
68	◎	イシホサキ	伊予の星咲き	愛媛	(伊予の星屑)
69	◎	イシミダレガミ	伊予の乱れ髪	愛媛	
70	◎	イシユダチ	伊予の夕立	愛媛	
71		イシベニ	伊予紅	愛媛	紅姫と同じ
72		イシベニテマリ	伊予紅テマリ	愛媛	伊予テマリと同じ
73		イシハンゲ	伊予変化	愛媛	別名 四国変化
74	◎	イシマル	伊予丸	愛媛	
75		イシドリ	彩		(ガク系)
76		イシガク	岩がく	静岡	
77		イシガミ	岩がらみ		岩がらみ属
78		イシシラユ	岩の白露	大分	八房ヤマアジサイ
79		イシノサズキ	石見の盃	島根	石見高原
80		イシノベニ	石見の紅	島根	石見高原
81	◎	イシベニナデシコ	石見紅ナデシコ	島根	石見高原
82		イシノホシ	石見の星	島根	石見高原
83		イシノヤ	石見の八重	島根	石見高原
84		ウズ	うず	古品種	ガク。ホンアジサイの枝変わり
85		ウチダブルー	内田ブルー	四国	
86	◎	ウツバニ	移り紅		紅花コガクと同じか?
87		エゾ	エゾ	新潟	エゾ
88		エゾシボリ	エゾ絞	北海道	エゾ。南北海道。津軽。
89	◎	エゾテマリ	エゾテマリ	新潟	エゾ
90		エゾノセイ	エゾ濃青	八甲田	エゾ
91		エゾホサキ	エゾ星咲	新潟	エゾ
92		エゾヤ	エゾ八重	新潟	エゾ
93		エケダケ	御池岳	滋賀	(上町氏)
94		ウツカ	黄冠	福岡	英彦山
95		ウツコバ	黄金葉	伊豆	ガク。枝変わり。
96	◎	ウツアマチャ	大甘茶	長野	
97		ウツタ	大分	大分	茨城の確実園
98		オシヤンブルー	オシヤンブルー	大分	交配種にも同名あり。下関市の野村氏命名。
99		オシタミヤ	大多宮	滋賀	(上町氏)
100		オシツルギ	大剣	鳥取	
101	◎	オシゴ	大紅	愛媛	

102		オシゴ	大紅額	福岡	
103		オシミ	青海	新潟	エゾ。青海町。
104		オシノフクシヤ	大森の風車	高知	
105		オシコテリギ	オキコンテリギ	トカラ列島	トカラコンテリギと同じ
106	◎	オシタマアジサイ	奥多摩アジサイ	東京	
107		オシクサ	オタクサ		ガク系。てまり(ホンアジサイ)
108		オシシボリ	小田絞	愛媛	小田町
109	◎	オシゴ	小田紅	愛媛	小田町
110		オシシキ	小田錦	愛媛	小田町
111		オシミヤ	小田深山	愛媛	小田町
112	◎	オシワリヒカリ	木沢の光	徳島	八重咲。久保氏発見。自生地木沢村にちなみ「木沢の光」と命名。(別名 乙女の舞)
113	◎	オシヒメ	乙姫	静岡	クレナイに似ている(同一の可能性あり)
114	◎	オシメノユメ	乙女の夢	新潟	エゾ
115	◎	オシリコアマチャ	踊り子甘茶	静岡	天城甘茶の実生
116		オシロツキ	おぼろ月	高知	交雑種。エゾ系に同名有り。
117		オシラダツツアジサイ	オシラダツツアジサイ		里帰り
118		オシキョウ	海峡	韓国	済州島
119		オシカウツギ	香りウツギ	伊豆大島	ウツギ属。芳香。
120		オシクウツギ	ガクウツギ	関東以西	アジサイ属。
121		オシカゲ	かぐや姫	広島	
122		オシカツラハノツキ	桂浜の月	高知	
123	◎	オシカマクラコマチ	鎌倉小町	交配種	(鎌倉美人)
124		オシカラツ	唐津	佐賀	
125		オシコクノクシ	韓国濃紫	韓国	
126		オシキアジサイノタキ	黄斑富士の滝	静岡	
127	◎	オシヤマ	黄斑ヤマ	大分	
128		オシノワガク	木曾岩ガク	長野	御岳山
129		オシノハンゲ	木曾変化	長野	(秋田氏)
130		オシタガワコマチ	北川小町	高知	北川町。交雑種。
131		オシタシノ	北信濃	長野	エゾ
132		オシノトウゲ	木の芽峠	滋賀	(上町氏)
133		オシキミコガク	黄掃き込みコガク	関西	
134		オシノナツギ	黄花ウツギ		ウツギ属
135	◎	オシミガハタコボシ	君か畑小星	滋賀	(筒井童子)
136		オシキョウデイズイロ	キョウデイズイロ		ウツギ属
137	◎	オシキョウシュウブルー	九州ブルー	宮崎	日向青と同じ
138		オシキョウヤマアジサイ	九州山アジサイ		キョウシュウの名称のノリウツギがヨーロッパに多い
139		オシコウボリ	京絞	京都	美山町
140		オシコウテマリ	京テマリ	京都	美山町
141		オシコウナデシコ	京ナデシコ	京都	美山町
142		オシコウノシヨウシコウ	京の丈紫紅	熊本	
143	◎	オシコウノマヒメ	京の舞姫	京都	美山町。八重咲。
144		オシコウノユキ	京の雪	京都	美山町
145		オシコウノユメ	京の夢	京都	美山町
146		オシキヨスミサカ	清澄沢	千葉	清澄山
147		オシキノサンサイ	霧の三彩	大分	(別名 九重山)
148		オシキョウシンジコガク	金山品字コガク	中国	
149		オシギンバノソウ	銀梅草		アジサイ科
150		オシキンレイ	金鈴	静岡	
151	◎	オシクヅエザン	九重山	大分	九重山1,791m
152		オシクヅエシコウ	九重紫紅	大分	玖珠郡。飯田高原。
153		オシクヅエノアサボリ	久住の青絞	大分	久住山1,787m
154		オシクヅエノアサヲラ	久住の青空	大分	久住町。久住高原。
155	◎	オシクヅエノアカシク	久住の赤軸	大分	久住20連峰

156		クジュウスベニ	久住の薄紅	大分	
157		クジュウメ	久住の梅	大分	
158		クジュウシグレ	久住のしぐれ	大分	
159		クジュウヒカリ	久住の光	大分	
160		クジュウホマレ	久住のほまれ	大分	
161	◎	クジュウリョウフウ	久住の涼風	大分	
162		クジュウヤエ	九重八重	大分	青の小さな八重咲
163		クジュウイチバン	九重一番	大分	
164		クチキムラ	朽木村	滋賀	(上町氏)
165		クモトノウコウ	熊本濃紅	熊本	
166		クワキテマリ	倉木テマリ	福岡	
167		クワキヒカリ	倉木の光	福岡	
168	◎	グレイスウッド	グレイスウッド	英国	里帰り。出所は関西。
169	◎	クレナイ	クレナイ	長野	飯田市。(手塚氏)
170		クワゲハ	クワアゲハ	鹿児島	(秋田氏)
171		クロク	黒軸	愛媛	両性花緑色。ピンク八重。
172	◎	クロヒメ	黒姫	奈良	万葉植物園
173	◎	コアジサイ	コアジサイ	関東以西	
174		コイト	小糸	大分	久住山。(野村氏)
175	◎	コウカンセツ	紅冠雪	鳥取、島根	
176		コガクウツギ	コガクウツギ	伊豆以西	
177	◎	コガクチュウゴク	コガク中国	中国	
178		ゴハチ	五ヶ瀬	宮崎	日向
179		コガネアジ	黄金富士	静岡	
180	◎	ゴカシヨウ	五家荘	熊本	コガク(交雑種)
181		ミハラコノエタマアジサイ	三原九重玉アジサイ	伊豆大島	ラセイタ玉アジサイ(山本武臣氏命名)
182	◎	コシノヨウ	越の粧	新潟	エゾ
183	◎	コチョウノマイ	胡蝶の舞	兵庫	別名 扇八重。美方郡。八重咲。
184		コハクチョウ	胡白鳥	新潟	エゾ
185		コハノアシ	湖畔の葦	高知	
186		コマチンボリ	小町絞	高知	仁淀川
187		コマチニシキ	小町錦	高知	仁淀川
188	◎	コメット	コメット	里帰り	ガク。極姫。小型。
189		コモチチダンカ	子持ち七段花	鳥取	別名 キクザキハイ。八重咲。
190		サイシュウトウ	済州島	韓国	流星と同じか?
191		サカタニシキ	坂田錦	東京	
192		サガニシキ	佐賀錦		別名 仁淀小町
193		サクマテマリ	佐久間テマリ	静岡	マイコに似ている
194	◎	サクラザカ	桜坂	新潟	巻機山。クレナイに似ている。
195	◎	ササノマイ	笹の舞	高知	
196		サツマンコン	薩摩紫紺	鹿児島	
197		サシノシヨウ	佐橋の庄	新潟	エゾ。十日市町。
198		サンセット	サンセット		西洋アジサイ。ガク系。
199		シバノベニズメ	椎葉の紅雀	宮崎	椎葉村
200		シバヤマ	椎葉ヤマ	宮崎	椎葉村
201	◎	シコウバイ	紫紅梅	徳島	
202		シコクウツギ	四国ウツギ	四国	ウツギ属
203		シコクノリウツギ	四国ノリウツギ	四国	
204		シコクタクウ	四国太郎	四国	(確実園) 三郎 次郎とある
205	◎	シコクノケン	四国濃紫	徳島	
206		シコクヘンゲ	四国変化	愛媛	伊予変化
207		シコクヤエコガク	四国八重コガク	愛媛	コガク
208		シスイヤマ	紫水山	新潟	エゾ系
209	◎	シズカ	静香	静岡	富士山
210	◎	シチダンカ	七段花	兵庫	
211		シチダンカニシキ	七段花錦	兵庫	八重咲
212	◎	シノメ	東雲	滋賀	八重咲。信楽郡。(大島氏)

213		シベガキコガクウツギ	シベ咲コガクウツギ	高知	
214	◎	シベリザキ	絞り咲エゾ	新潟	エゾ。(エゾ絞)
215		セツカキ	石化八重	古品種	別名 十二単。(H.マウラドウケトイ)
216		シヨウガサキ	城ヶ崎	東伊豆	ガク系。八重花。(平沢氏)
217		シヨウナンゴボドウ	湘南御母堂	神奈川	(交配種)
218	◎	シヨウヘンテマリ	城辺テマリ	愛媛	城辺村
219		シヨウリンウチダブルー	小輪内田ブルー	高知	
220		シラカミ	白神	秋田	エゾ
221		シラサギ	しらさぎ	京都	美山町
222	◎	シラユキヒメ	白雪姫	愛媛	中心の両性花が唯一八重
223	◎	シロアマチャ	白甘茶	静岡	白花甘茶と同じか?
224		シロガク	白額	関東	
225	◎	シロシマフリフ	白縞散斑	東京	
226		シロスナゴ	白砂子	富士山	
227	◎	シロエ	白妙	静岡	安部峠
228		シロハキコミフ	白掃き込み斑		
229	◎	シロバナ	白花	静岡	
230		シロバナアマチャ	白花甘茶	静岡	
231		シロバナササアジサイ	白花草アジサイ		草アジサイ
232	◎	シロフジ	白富士	静岡	愛鷹山。八重咲。
233		シロフジノタキ	白斑富士の滝	静岡	
234	◎	シロヤマ	白斑ヤマ	長野	
235	◎	シロマイコ	白マイコ	静岡	
236		シロヤマ	白ヤマ	静岡	
237		シノグサミダレ	新宮五月雨	愛媛	伊予の五月雨と同じ
238	◎	シノグサテマリ	新宮テマリ	愛媛	新宮
239		スイコノカスリ	酔湖の緋	高知	
240		スイコヒメ	酔湖姫	高知	
241	◎	スカイブルー	スカイブルー		交配種ガク系
242	◎	スズカ	鈴鹿	三重	鈴鹿山系
243		スズノマイ	鈴の舞		
244		スルガコガネ	駿河黄金	静岡	
245		セヒ	星妃	京都	美山町
246		セイホウ	清鳳	鳥取	
247	◎	セリユウ	清流	鳥取	同じ名前韓国アジサイあり
248	◎	セトノキ	瀬戸の月	愛媛	コガクと交雑種
249		セトノクハニ	瀬戸の夕紅	愛媛	
250		セリウツギ	芹生時雨	京都	芹生時
251		センヒメ	千姫	広島	
252		サワカセ	爽風	高知	大きな3弁。ピンク。
253	◎	ダイセン	大山	鳥取	大山1,729m
254	◎	オヤマゴシヨグルマ	大山御所車	神奈川	
255		ダイセンマル	大山小丸	鳥取	だいせんこぼし?
256		ダイセンシロ	大山白	鳥取	
257		ダイセンルギ	大山剣	鳥取	
258	◎	ダイセンブルー	大山ブルー	鳥取	別名 大山青
259		ダイセン丸	大山丸	鳥取	別名 大山小丸
260		ダイヤデム	ダイヤデム	フランス	交配種。山本武臣氏導入。
261		タイワンキウ	台湾ときわ	台湾	ナガバコンテリギ
262		タニウツギ	谷ウツギ		スイカズラ科
263	◎	タノジ	田の字	関西	分類上はヤマ
264		タマアジサイ	タマアジサイ	関東周辺	
265		タマザンセツ	多摩残雪	東京	
266		タマモア	玉藻蒼	香川	
267	◎	タンゴカイサキ	丹後貝咲	京都	エゾ
268	◎	タンゴワハシユ	丹後白寿	神奈川	
269		タンセイ	淡青	京都	

270		チゴベニバナ	筑後紅花	福岡	
271		チヤボヤマアジサイ	チヤボヤマアジサイ	熊本	八房ヤマアジサイ
272		チュウゴクキ	中国トキワ	中国	
273		チュウシュウカロシク	長州黒軸	山口	ガク系
274		チュウセンアジサイ	朝鮮あじさい	濟州島	濟州島ヤマカ?
275		チヨナル	千代の春	高知	
276		チヨヒカリ	千代の光	高知	別名 土佐キキョウ
277	◎	ツエシボリ	津江絞り	大分	
278		ツエノサミダレ	津江の五月雨	大分	
279		ツエノオチマリ	津江のオチマリ	大分	日田郡
280		ツエノハクスイ	津江の白水	大分	可愛らしい白。3弁の花。
281		ツエノハナ	津江の華	大分	
282		ツエノハニツル	津江の紅鶴	大分	
283		ツエノマボロシ	津江の幻	大分	緑地にうすくふっくら紅色
284		ツエノムササキ	津江の紫	大分	
285		ツカサウツギ	司ウツギ	愛媛	ウツギ属
286		ツキガヤテマリ	月ヶ谷テマリ	徳島	高知
287		ツキノオウシ	月の皇子	新潟	エゾ
288		ツシマ	ツシマ	長崎	対馬
289		ツバキザカシウラク	椿坂集落	滋賀	
290	◎	ツルギザキ	剣咲き	徳島	
291	◎	ツルギノマイ	剣の舞	徳島	
292		ツルミ	鶴富	宮崎	椎葉村。旧名 鶴富姫。
293	◎	ツルヒメ	つる姫	広島	
294	◎	ティアラ	ティアラ	フランス	里帰り。2001年日本アジサイ協会坂本氏、杉本氏導入。
295		テンゴツカニシキ	天狗塚錦	徳島	
296		テンニョ	天女		クレナイの実生? (脇田氏)
297	◎	テンニョノマイ	天女の舞	高知	
298		テンマリ	てんまり	愛媛	天穂山。四国カルスト台地。
299		トカラ	トカラ	トカラ列島	
300		トカラノソラ	トカラの空	トカラ列島	別名(青トカラ)実生
301		トキメキ	ときめき		交配種。(谷田部氏)
302		トサガラ	土佐神楽	高知	
303		トサガソリ	土佐緋	高知	
304		トサコノヨウ	土佐紺青	高知	濃い青の弁。両性花も青で美しい。
305		トサヅクラ	土佐桜	高知	
306		トサボリ	土佐絞り	高知	
307		トサセリユウ	土佐清流	高知	紅のナデシコ弁
308	◎	トサアカツキ	土佐の暁	高知	花色 緑色→煉瓦色
309		トサキヲボシ	土佐の綺羅星	高知	旧名 土佐南風
310		トサノツキ	土佐の月	高知	
311		トサノマホロバ	土佐のまほろば	高知	
312		トサノラクエン	土佐の楽園	高知	
313		トサノウツギ	土佐風車	高知	
314		トサノミズ	土佐美鈴	高知	
315		トサユウチヨウ	土佐遊蝶	高知	大きなピンクの花弁
316	◎	トサリョウフウ	土佐涼風	高知	小さな星のような八重。ピンク。
317	◎	トサリョクフウ	土佐緑風	高知	
318		トサウラベ	土佐童	高知	
319		トサノキトウゲ	栃の木峠	滋賀	みひらやまと同じ。(上町氏)
320		ナガトムササキ	長門紫	山口	
321	◎	ナデシコ	ナデシコ	熊本	
322		ナルコムササキ	鳴子紫	大分	下関市の野村氏命名。
323		ニジ	虹	愛媛	
324		ニジノタニ	虹の谷	宮崎	日向アジサイ
325		ニヨトコマチ	仁淀小町	高知	

326	◎	ニヨトコマチ	仁淀八重	高知	別名(佐賀錦)仁淀川。小さな八重の濃い紅の花弁。
327	◎	ノリ	濃紫	熊本	こむらさき。のうむらさき。
328		ノリウツギ	ノリウツギ	全国	
329		ノリウツギ	梅花甘茶	四国	梅花甘茶属
330		ノリウツギ	梅花ウツギ		梅花空木属
331		ノリウツギ	梅仙	鳥取	
332		ノリウツギ	白心	宮崎	
333		ノリウツギ	白扇	愛知	鳳来山。テマリ咲。
334	◎	ノリウツギ	八重白扇	愛知	鳳来山。八重テマリ咲。
335	◎	ノリウツギ	白鳥	静岡	富士山。八重咲。小さな八重花弁。
336		ノリウツギ	白峰	広島	
337		ノリウツギ	白麗	静岡	富士山
338		ノリウツギ	箱根ウツギ	静岡	谷ウツギ属
339		ノリウツギ	箱根ノリウツギ	静岡	
340	◎	ノリウツギ	羽衣の舞	高知	八重咲。交配種にも同名あり。
341	◎	ノリウツギ	鉢伏テマリ	兵庫	美方郡。鉢伏山。
342		ノリウツギ	初恋	京都	美山町。交配種にも同名あり。
343	◎	ノリウツギ	花笠	佐賀	コガク。黒髪山。
344		ノリウツギ	華車	宮崎	(脇田氏)
345		ノリウツギ	花テマリ	愛媛	交配種にも有り
346		ノリウツギ	花のささやき	新潟	エゾ。十日市町。
347	◎	ノリウツギ	花吹雪	愛媛	ガク系グレイスウッドの実生。(藤井氏)
348		ノリウツギ	花吹雪草アジサイ		草アジサイ属
349		ノリウツギ	花まつり	愛媛	
350		ノリウツギ	万年山テマリ	大分	ハヤマ山
351		ノリウツギ	浜美人	中国	
352		ノリウツギ	半テマリ	兵庫	半テマリコガク(六甲花笠)
353		ノリウツギ	火打ヶ岳	箱根	
354		ノリウツギ	比叡の虹	京都	美山町
355		ノリウツギ	光の谷	宮崎	
356		ノリウツギ	英彦山絞り	福岡	
357	◎	ノリウツギ	英彦山桃源	福岡	
358	◎	ノリウツギ	肥後絞り	熊本	
359		ノリウツギ	肥後の春風	熊本	
360		ノリウツギ	肥後紫	熊本	
361		ノリウツギ	日高新錦山	高知	
362	◎	ノリウツギ	飛蝶	京都	美山町
363		ノリウツギ	日の丸梅花ウツギ		ウツギ属
364	◎	ノリウツギ	姫甘茶	関東	コアマチャと同じ
365		ノリウツギ	姫ウツギ		ウツギ属
366	◎	ノリウツギ	姫紅	愛媛	虹系
367	◎	ノリウツギ	日向青	宮崎	
368		ノリウツギ	日向青テマリ	宮崎	
369		ノリウツギ	日向うす紅	宮崎	
370	◎	ノリウツギ	日向紺青	宮崎	日向青より大輪
371		ノリウツギ	日向テマリ	宮崎	
372		ノリウツギ	日向のクロアゲハ	宮崎	別名 クロアゲハ。鹿児島県境。
373		ノリウツギ	日向の白雪	宮崎	
374		ノリウツギ	日向の紅神楽	宮崎	(松元氏)
375		ノリウツギ	日向の紅子持ち	宮崎	(松元氏)
376		ノリウツギ	日向の類紅	宮崎	
377	◎	ノリウツギ	日向紅	宮崎	
378		ノリウツギ	日向の羽衣	宮崎	
379		ノリウツギ	平井錦	静岡	富士山
380		ノリウツギ	ピローサ	中国	
381	◎	ノリウツギ	斑入り甘茶	関東以西	

382		フイウツギ	斑入りウツギ		ウツギ属
383		フリエフ	斑入りエゾ	新潟	エゾ
384		フリオノハラ	斑入り大野原	愛媛	野村町。大野原。
385		フイクサアジサイ	斑入り草アジサイ		草アジサイ属
386		フイコンテリギ	斑入りコンテリギ		ガクウツギ
387		フイシスカ	斑入り静香	静岡	
388		フイシロバナ	斑入り白花	静岡	
389		フイタニウツギ	斑入り谷ウツギ		スイカズラ科
390		フイヤクシマコガク	斑入りヤクシマコガク		
391		フイヤマ	斑入りヤマ		別名 岐阜葉芸、浜松葉芸
392		フガク	富岳	静岡	
393	◎	フデノハナ	普賢の華	長崎	普賢岳
394	◎	フジナデシコ	富士ナデシコ	静岡	富士山
395		フジノハラキ	富士の白滝	静岡	別名「富士の滝」と同じ
396	◎	フジノハラエキ	富士の白雪	静岡	
397	◎	フジノキ	富士の滝	静岡	八重咲。
398	◎	フゼンナデシコ	豊前ナデシコ	福岡	
399		フゼンノハナ	豊前の散斑	福岡	
400	◎	フゼンノハナライ	豊前のはじらい	福岡	
401		フゼンハコロモ	豊前羽衣	福岡	
402		フレンジオサ	プレジオサ		里帰り。ロサルバの実生。
403	◎	フンゴヤ	豊後八重	大分	
404	◎	フツテマリ	別子テマリ	愛媛	
405	◎	フニアマチャ	紅甘茶	関東	
406		フニガク	紅額	東海	山アジサイ古品種
407		フニクシウ	紅化粧	高知	
408	◎	フニツルギ	紅剣	徳島	
409	◎	フニテマリ	紅テマリ	東海	欧州では「ユーゼニー皇居」
410		フニバナ	紅花	京都	
411		フニヒメ	紅姫	愛媛	伊予紅と同じ
412	◎	フニウシヤ	紅風車	愛媛	
413		フニムササキ	紅紫	鳥取	濃紫大山と同じ
414		フニヤッコ	紅奴	宮崎	ヒュウガアジサイ
415		フニヤマ	ベニヤマ	静岡	
416	◎	フニザキコガク	弁咲きコガク	静岡	
417	◎	フウゲイノカツキ	防芸の暁	山口	
418		フウチョウノカミ	防長の霞	山口	
419		フウチョウテマリ	防長テマリ	山口	
420		フウチョウノアガサリ	防長の青緋	山口	
421	◎	フウチョウノアカツキ	防長の暁	山口	
422		フウチョウノコガク	防長のコガク	山口	
423		フウチョウノユキ	防長の小雪	山口	
424		フウチョウノハコロモ	防長の羽衣	山口	
425		フウチョウノホレ	防長のほまれ	山口	
426		フウチョウノシウン	防長の紫雲	山口	
427		フウチョウノモガク	防長の桃ガク	山口	
428		フウチョウノモクモ	防長の桃雲	山口	
429	◎	フウモガク	防府桃ガク	山口	
430		ホシキエゾ	星咲きエゾ	新潟	
431		ホシノカガヤキ	星の輝き	徳島	藍姫に似た小輪濃青
432		ホシヒメ	星姫	京都	星妃と同じ
433		ホシアジサイ	ホシアジサイ	静岡	ガクテマリ咲(オタクサ)
434		マイコ	マイコ	三重	
435		マイコシキ	マイコ錦	三重	
436		マルハニガク	丸弁ベニガク	愛媛	
437	◎	マンゲツ	満月	愛媛	コガク

438	◎	ミカヤヒ	美方八重	兵庫	美方町。八重咲。(浜田氏)
439	◎	ミカサドリ	三河千鳥	静岡	遠州千鳥。ガク系。
440		ミクマガエシ	みくるまがえし	高知	
441		ミサガサリ	美里緋	愛媛	
442	◎	ミサザクラ	美里桜	愛媛	石鎚山
443		ミサボリ	美里絞	愛媛	石鎚山
444		ミサテマリ	美里テマリ	愛媛	石鎚山
445	◎	ミサナデシコ	美里ナデシコ	愛媛	石鎚山
446		ミサハフク	美里白風	愛媛	
447	◎	ミサムササキ	美里紫	愛媛	石鎚山
448	◎	ミドリボシテマリ	緑星テマリ	兵庫	別名(六甲テマリ)
449		ミナコグリーン	皆越グリーン	山口	ガク系
450		ミナズキ	ミナズキ		ノリウツギ属
451	◎	ミソモヒメ	三瀬の桃姫	熊本	
452		ミソノハナ	峰の華	高知	交雑種
453		ミハギニシキ	美萩錦	山口	
454		ミハラヤヒ	三原八重	東京	伊豆大島。ガク系。(白井氏)
455		ミヤノホシ	都の星	京都	美山町。堀越峠。
456	◎	ダケノミヤビ	大山ミヤビ	鳥取大山	
457		ミヤマクロヒメ	深山黒姫	京都	美山町。堀越峠。
458	◎	ミヤマボリ	深山絞	京都	美山町。堀越峠。
459		ミヤマノシ	美山の虹	京都	美山町。堀越峠。青地に紅ふっくら弁。
460		ミヤマエニシキ	深山八重錦	京都	斑入り
461	◎	ミヤマエムササキ	深山八重紫	京都	町は美山。名前は深山。八重咲。
462		ミヨウジノダケ	明神岳	箱根	
463		ミライ	未来		交配種。(谷田部氏)
464	◎	ミネユキ	峰の雪	熊本	コガク。福崎氏。(杉本氏)
465		ムサノ	武蔵野	栃木	鹿沼
466	◎	ムラコ	村娘	鳥取	ムラッコ
467		ムーン	紫雲		草アジサイ属
468		ムラサキキア	紫式部	広島	交配種にも同名あり
469	◎	ムラサキテマリ	紫テマリ		
470		ムラサキヒメ	紫姫	広島	藍姫に似ている
471		ムラサキフクリン	紫フクリン	兵庫	実生? 別名青フクリン。
472	◎	ムラサキヘンゲ	紫変化	鳥取	(池田氏)
473	◎	モモイロヤマアジサイ	モモイロ山アジサイ	天竜川	
474		モモイロアジサイ	桃色コアジサイ		
475		モモガク	桃ガク	東海	
476		モモバナイワガラミ	桃花イワガラミ		イワガラミ属
477	◎	モモヒメ	桃姫	愛媛	モモイロの枝違い
478		モモサト	桃美里	愛媛	花に緋
479	◎	モンアソ	モン・アソ	フランス(熊本)	モンテ・ニューアソの略。2004年ル・マニアの元王女プリンス・ストザより坂本、杉本、鈴木、安西、座間が枝を戴いて増殖。
480		ヤクササツバキ	八重草花吹雪		草アジサイ属
481	◎	ヤクシアマチャ	八重の甘茶	長野	八重咲
482		ヤクシアアジサイ	八重のコアジサイ		コガク八重咲。別名 花笠。
483	◎	ヤクシコガク	八重のコガク		コガク(天女の舞)
484		ヤクヤマコンテリギ	八重山コンテリギ	八重山	
485		ヤクシマ	屋久島	屋久島	宮の浦岳 1,982m
486	◎	ヤクシマコガク	屋久島コガク	屋久島	
487	◎	ヤクシマコンテリギ	屋久島コンテリギ	屋久島	カラコンテリギ。有香。
488		ヤクシマシラユキ	屋久島白雪	屋久島	
489		ヤクシマツルアジサイ	屋久島ツルアジサイ	屋久島	
490		ヤクシマヒメ	屋久島萌	屋久島	
491		ヤクシマヤマ	屋久島ヤマ	屋久島	ヤクシマ甘茶と同じか?

492		ヤハズアジサイ	ヤハズアジサイ	関西、四国	
493		エツル	夕鶴		交配種に同じ名前あり
494		エツメ	夕姫	広島	
495		エキモン	雪小紋		
496		エキサシ	雪さらし	新潟	エゾ。十日市町。
497		エヤマシキ	湯山錦	熊本	
498		エイノホ	宵の星	静岡	交配種
499	◎	エウキ	楊貴妃	愛媛	
500		エゴコウケン	余呉高原	滋賀	(上町氏)
501	◎	エヨミノキ	横浪の月	高知	
502		エヨミノヒカリ	横浪の光	高知	旧名 土佐おり姫。「横浪の月」の枝変わり。
503		エヨコイ	よさこい	高知	
504		エヨコイトリ	よさこい踊り	高知	花卉の根元が白く、重なっている
505		ライコウ	雷光	熊本	
506		リュウキュウコンテリギ	琉球コンテリギ	沖縄	
507	◎	リュウセイ	流星	韓国	
508		リュウアウ	涼風	徳島	交雑種
509		リュウスイ	緑翠	九州	
510		ロココウハガサ	六甲花笠	兵庫	コガク
511		アオアラ	紺碧		青空(広島)と同じか?
512		トサハルサメ	土佐の春雨	高知	
513		リュウシン	緑神	大分	
514		ビツチュウ	備中		
515			磐窟ナデシコ		
516			吹割の滝		
517			箱根		
518			大一重		
519			錦川		
520			やどりぎ		
521			伊豆		
522			球磨川		
523			宮崎		
524			赤額		
525			伊予のさざ波		
526			蝶の舞		
527			デラバイ	韓国	濟州島

※この一覧表は五十嵐建夫氏と掬川義勝氏のコレクションで自生地、発見者、命名者等を調べて作成されたもので大変な努力と敬服致して居ります。その成果を「日本アジサイ協会」の会報に記載をお願いしましたところ、お二人とも快く承諾戴き、心から感謝申し上げます。 事務局

※ モン・アソの由来。プリンセス・ストーザは詳細不明との事でしたが、後日ナント市の友人トビーナーセリーの社長が阿蘇山で採取した種子を播種。その選抜種と判明。 杉本 誉晃



鎌倉アジサイ同好会展示会場(撮影 大友 三夫氏)

日本アジサイ協会 鎌倉アジサイ同好会

第10回 自生アジサイ展示会を終えて

鎌倉アジサイ同好会会員 掬川 義勝

2000年同会を設立以来、今回10周年を迎えました。

年々参加者が増え、またリピーターも多く抱え展示会のあり方を価値ある会に育てました。創設時の諸先輩各位のご尽力によるものと感謝申し上げる次第です。

展示会場	〒247-0072 神奈川県鎌倉市岡本1018 神奈川県立フラワーセンター 大船植物園 TEL 0467-46-2180
展示会日時	2009年6月2日(火)～6月7日(日)
展示作品	出品会員28名・出品品種171種・出品作品数286鉢

開催にあたり右のような案内はがきを約500枚毎年リピーターに送付します。また会員各位相当数の案内を発信します。

搬入は前日6月1日(月)AM8時30分より始まり会場設営します。当日はほぼ全員が参画、午後二時頃終わります。

例年5月下旬に開催されますが今回は諸般の都合から一週遅れになり、さらに温暖化も加わり作品の選択や管理に苦勞しました。

また当会はアジサイ苗を来客向けに頒布しています。極めて廉価で実費の精神で利益は求めません。アジサイを愛し趣味家を育てることが基本精神です。事実美しく咲いた展示品の苗を求めるのは人の常であり最大限希望に添えるようにしています。

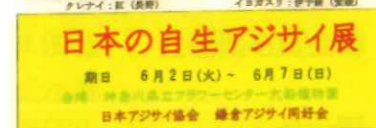
特に開催日当日および翌日は稀少苗を求め、沢山の来客があり大変混雑します。

一方、展示品も年々増え重複する作品も多くあります。例えば藍姫8ヶ、クレナイ7ヶ、白富士6ヶ等。特に規制してません。さらに期間中は3～4回のアジサイミニ園芸教室も開催され80～100人ほどの参加者があります。育て方のレジュメも差し上げています。

そして会場の片隅にアジサイ相談コーナーを常時設営対応しています。

会場には会員のネームプレートを付けた人たちが立ち個別の相談や案内をしています。(当番一覧表作成) この展示会が毎年盛大に開催される背景には、会員の努力もさることながら下記の事情があります。

- ① 同会場には屋内展示会場があり天候に左右されません。
- ② 相当数の展示台、スペースがあります。
- ③ 園内は実に広く、バラ展等他の植物を見る人たち等、集客力に恵まれています。



アジサイ寺の多い鎌倉は展示会にとって最高の環境です。したがって寺院関係者も多く訪れます。また遙か遠く京都、大阪、名古屋、仙台、等わざわざ日帰りでの参加者もあり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

なお期間中の食事やお茶等は各人個人負担としており、費用をかけない運営に心掛けています。会員も多いことから展示期間中は会員交流の最高の場でもあります。参加会員の皆様のお顔もやる気充分笑顔にあふれていました。



同好会 一年間の活動

- 総会及び研修会 2009年4月11日(土)
展示会関係打ち合わせ・会員代表三名による体験発表と質疑応答
- 展示会 上記報告の通り
- 懇親会 2009年6月27日(土)
会費3000円にて懇親食事会
- 大船フラワーセンターフェスティバル 2009年10月31日(土)～11月1日(日)
同行事への参加及び会員向け苗の無償提供、交換会

参考

会員数30名です。会員の入会は、入会申込書と1000円です。
会員としてのあり方 年間行事など説明
なお当会においてはこの4月、太田哲英氏が新会長に選任されました。
今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

平成21年8月10日

山アジサイ 小さく美しく育てる盆栽風仕立て

私が入会している日本アジサイ協会 鎌倉アジサイ同好会では平素のコミュニケーションに加え、アジサイに関する研修会が毎年開催されます。今年は3名の代表者に体験発表して頂きました。

- ① 小さく育てて苔玉盆栽育て 40分 木村貴美子氏 (2001年入会)
- ② 小さくしか育てられない 40分 杉田左斗子氏 (2000年入会)
- ③ アジサイ総論 30分 五十嵐建夫氏 (2000年入会)

木村氏は陶芸の道にも優れ、ご自分でアジサイ鉢を素晴らしい色彩で焼き、苔玉と苔を使い小さく芸術的に育てています。杉田氏は当会を代表する知恵袋、アジサイ博士といわれます。氏いわく私のはどうして小さいのか？どうすれば大きく育てられるのか？贅沢な悩みを言っています。

小さく盆栽風に育てるメリットは、

- ① 小さいゆえに置き場所が狭くても沢山置かれる。
- ② 持ち運びが楽で光を求めたりなど随時移動が簡単
- ③ 植え替えや土など作業も楽です。
- ④ 何よりも小さい故に可愛く映る。
- ⑤ 水やり等も楽のようです。

さて小さいとは、3号鉢前後の鉢植えです。秘訣を学びました。

- ☆ 鉢を大きくしない。鉢が大きくなれば根もしっかり張って木が育つとのこと。
- ☆ 植え替えもそのまま同じ鉢にする。
- ☆ 小さな鉢だけに太陽光と液肥はしっかり与える。
- ☆ 株本は基本的には一本仕立て。

いつもながらこの時間が一番充実したときでいつも時間オーバーになってしまいます。

アジサイ同好会会員 掬川 義勝

2009年(平成21年)6月23日 火曜日 3版 2

火曜トラベル

日本のアジサイの名所を満喫

読者が決める「日本一」は? 回答総数7030人

1位	箱根登山鉄道(神奈川)	2945人	4	矢田寺(奈良)	1311人
2位	明月院(神奈川)	2532人	5	六甲山・摩耶山一帯(兵庫)	1238人
3位	三室戸寺(京都)	2212人	6	成就院(神奈川)	707人
			7	高幡不動尊金剛寺(東京)	604人
			8	神戸市立森林植物園(兵庫)	568人
			9	みちのくあじさい園(岩手)	550人
			10	本土寺(千葉)	398人

アンケートは、いしだあゆみさんと編集部で候補を選び、朝日新聞の会員サービス「アスパラクラブ」のホームページで実施しました。(複数回答)



標高に応じて彩り楽しむ

箱根登山鉄道は、夏に訪れる観光客に彩やかなアジサイを堪能させる。標高に応じて咲く鮮やかなアジサイ。山根由起子氏撮影

「アジサイの名所」をめぐると、標高に応じて咲く鮮やかなアジサイに出会える。山根由起子氏は、アジサイの名所をめぐると、標高に応じて咲く鮮やかなアジサイに出会える。山根由起子氏は、アジサイの名所をめぐると、標高に応じて咲く鮮やかなアジサイに出会える。

be evening

今週の案内人 いしだあゆみさん

「アジサイの名所」をめぐると、標高に応じて咲く鮮やかなアジサイに出会える。山根由起子氏は、アジサイの名所をめぐると、標高に応じて咲く鮮やかなアジサイに出会える。



山々の雪



ダンスパーティー

この記事の使用については朝日新聞社、知的財産センターの承諾を頂いて居ります。承諾書番号2426、2009年8月7日。尚、夕刊担当記者の山根由起子氏が2009年5月取材に見えました。事務局



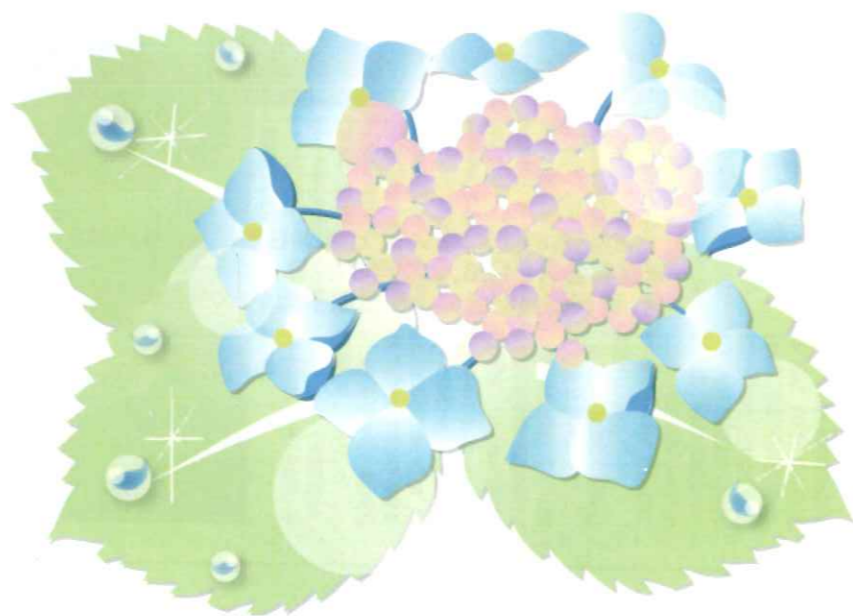
ウェディングブーケ



小町

事務局だより

- * 6月26日に神戸市立森林植物園で開催が予定されていましたが関西方面での新型インフルエンザ蔓延の恐れから残念ですが中止となりました。平成20年度の業務報告・決算及び平成21年度の業務予定・予算につきましては非常時ということで総会に替え臨時理事会を開き臨時理事会で承認を受け次号の会報に掲載することで了承をお願いしたいと考えています。
- * 巻頭、東京大学大学院の柿澤茂行氏の「アジサイ葉化病の蔓延について」はこの病気の蔓延が容易ならざる状態にあることを改めて認識させてくれます。残念ながら未だ「緑アジサイ」の名称で市中に出回っていることは皆さんご承知の通りです。
- * みつる植物研究所所長・藤井敏男氏が巷のアジサイ博士ならぬ本当のアジサイ博士取得記をお寄せくださいました。研究者の間でのアジサイの扱いが垣間見え、次号が待たれます。
- * 鎌倉アジサイ同好会の「あじさい所有品種一覧表」を掲載しました。これを基に品種表を整理してみたいと思います。追記事項、間違いなどをご指摘いただければ幸いです。情報をお待ちしています。



「アジサイ」の諸君
「アジサイ」の諸君



発行 藤田太一 編集 藤田太一

編集 (e-mail) 藤田太一 (e-mail) 藤田太一
会報の発行に当たっては、ご協力をお願いいたします。

発行の諸君へ

発行の諸君へ

本誌の発行に当たっては、ご協力をお願いいたします。また、本誌の発行に当たっては、ご協力をお願いいたします。

藤田太一 発行

発行 藤田太一

発行 藤田太一

発行 藤田太一

発行 藤田太一
発行 藤田太一
発行 藤田太一
発行 藤田太一

発行 藤田太一

発行 藤田太一

ご注文は FAX 0467-45-6591 で!!

空前の「ナショナル・コレクション」 コリン マレー 『アジサイ図鑑』

大場秀章／太田哲英（訳）

A4判 / 並製・カバー装 / 初版1,000部 / 244頁(写真 990点)

フランス「ナショナル・コレクション (1999)」認定の
膨大なコレクションから 990点をフルカラー写真で紹介!

アジサイ属を知るための本

- アジサイ属を亜節で構成
- 分類表付き
- 珠玉のカラー写真満載
- 書き下ろし解説付き

日本語版のみの特典

- 大場秀章解説
「アジサイ属研究小史と本書」
- 全体索引・日本語索引
- 栽培品種形容語索引



この度の日本語版は、植物分類学の第一人者である大場秀章先生が最新の知見を基に解説を執筆された。太田哲英さんは、研究心旺盛なヤマアジサイの蒐集家である。アジサイの栽培にも精通した上での翻訳は、微に入り間違いない。この図鑑が、アジサイ愛好家の座右の書となり、アジサイ研究者の定本となることを願っている。

日本アジサイ協会副会長 池田正弘

申込日 2009年 月 日

特別割引購入申込書

(グリーンライフ扱い)

コリン マレー『アジサイ図鑑』(定価6,000円)を _____部購入申し込みます

お名前

印

ご住所 〒

お電話

E-mail

振込先金融機関
郵便局
口座番号 00120-9-260441
口座名称 株グリーンライフ
※金額は5,600円(送料200円)
になります。

[特典] 本申込書にてお申込の場合に限り定価の一割引(送料別途)にてお届けいたします。
本申込書は直接 FAX または郵送でのご注文に限ります。書店へのご注文には利用できません。



〒247-0056 神奈川県鎌倉市大船 2-14-13 TEL.0467-45-5119



アスペラ (中国産)



コサージュ (加茂花菖蒲園オリジナル作品)

第22号 あじさい

2009年9月発行

発行 日本アジサイ協会

事務局 〒173-0037 東京都板橋区小茂根5-3-11 杉本誉晃 方

日本アジサイ協会事務局

TEL 03-3956-8423 FAX 03-3530-7707

三菱東京UFJ銀行 港北ニュータウン支店 口座番号 普通 0481343

ホームページ

<http://www9.ocn.ne.jp/~ajisai/>